# 農村女性組織の活動と集落の維持・活性化に関する研究

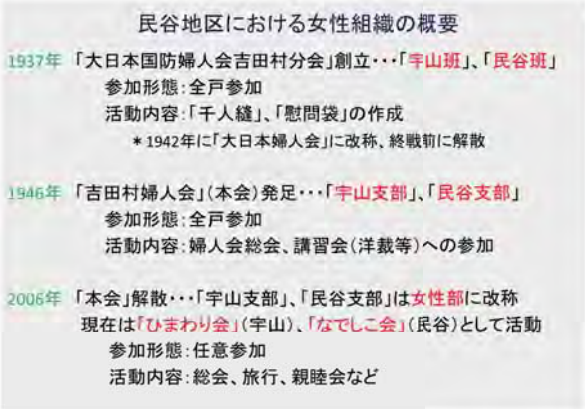
農林生産学科　助教
中間　由紀子



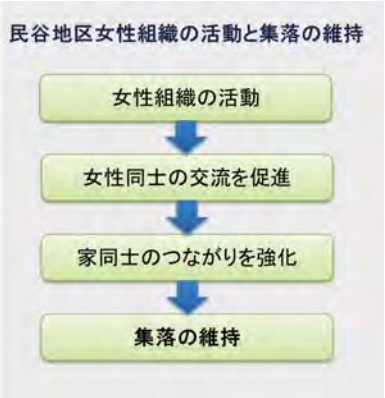
## 研究成果の概要

本研究では，雲南市吉田町民谷地区の女性組織を対象に，組織体制，組織の性格，活動内容の変遷について明らかにした。それを通じて女性組織の活動が民谷地区の維持・活性化にどのように寄与しているのかについて検討した。

民谷地区は宇山と民谷という2つの集落から成る。両集落では戦前から現在に至るまで女性組織が存続してきた。現在は，「ひまわり会」（宇山女性部），「なでしこ会」（民谷女性部）という女性組織がそれぞれの集落において活動を行っている（年表参照）。民谷地区において女性組織が存続し続けることができたのは，時代の変化に合わせて組織や活動を変化させたことにある。参加形態を任意参加にする，会員同士の交流を中心とした活動を行う等である。




女性組織（婦人会・女性部）の活動は，集落内の女性同士の交流を促進し，家同士のつながりを強化してきた。すなわち，その活動が集落の維持に大きな役割を果たしてきたといえる。しかし，集落を活性化させるまでには至っていない。各集落，ひいては民谷地区の活性化のためには，集落および地区の外側に向けた活動が不可欠である。




現在，「ひまわり会」，「なでしこ会」の会員数はいずれも 10 名で，その多くは 50 代，60 代である。新規会員の加入は期待できず，組織の維持が難しい状況となっている。存続のためには両組織の統合が望ましいが，歴史的な経緯もあり現時点では困難である。まずは組織間交流が必要である。その際，島根大学の学生が両組織の仲介役を担えるのではないかと考える。例えば，報告者の所属する農村経済学教育コースでは，「農村調査分析論」という科目を開講している。学生が班ごとに分れて現地調査を実施し，当該地域が抱える課題を明らかにし，その解決策について地域住民の方々に提案するというものである。そのうち地域食文化班は，2013 年から継続して民谷地区の女性部を対象に調査を実施している。調査だけではなく，毎年両女性部と共催で料理教室を行っている。第三者である島根大学の学生が間に入り，こうした活動を継続して行うことにより，両組織の関係を徐々に深められるのではないかと思われる。交流促進によって女性部同士の連携が強化されれば，集落だけでなく地区の維持にもつながる。さらに，共同事業（郷土料理の商品化等）の実施が実現すれば，雇用の創出等によって人の出入りが増え，地区全体が活性化していくものと考える。

## 社会への貢献・その他

本研究では，民谷地区における女性組織の活動と集落の維持・活性化への寄与について明らかにした。活動が停滞している他の中山間地域の女性組織にとって，本研究の成果は有益な情報になり得ると考える。

また，2015 年 12 月 5 日にくにびきメッセ（松江市）で開催された公開シンポジウム（「汽水域の環境管理と地域活性化に向けて」）において研究成果を地域住民の方々に紹介した。